



ちまきとかしわもち 何の葉で包む？



はっとり たもつ
服部 保
兵庫県立大学名誉教授

スーパーに並ぶ「ちまき」はササの葉、「かしわもち」はカシワの葉で包んだものが常連ですが、本来は葉も包み方も地域の個性がありました。あなたの地域では、おもちをどんな葉でどんな風に包みますか？

5月5日の端午の節句には、ちまきとかしわもちが供えられます。ちまきは砂糖の入っていないもち(団子)を葉でくまなく包み、熱湯で煮るなどしてつくられたものです。かしわもちはいん入りのもち(団子)を葉で部分的に包み、蒸すなどしてつくられたものです。ちまきは保存食としても利用されてきましたが、もち全体をくまなく包んだ上に熱湯で煮ることによって全体が殺菌されていたので保存がきいたのです。あんを入れるかしわもちはもともと保存できないので、もち全体を包む必要がありません。

ちまきはチガヤの葉でまいた

端午の節句は、中国で春秋戦国時代の楚の政治家・屈原を弔うために始まったとされ、その行事に用いられた供え物の粽が日本へ伝えられ、ちまき(茅巻き)に変わったと考えられています。平安時代の890年ごろには、ちまきの記載があるので歴史はたいへん古いですね。現在のちまきはよくササの葉で包まれています。本来はチガヤ(茅)の葉で巻くことから「ちまき」の名前が生まれたこと、チガヤは神聖なもの、あるいは呪力をもっていると考えられており、そのことは夏に神社で行われる



茅の輪ぐり (亀戸天神社)

クイズ 左ページ写真のどの葉で包んだおもちでしょう？



茅の輪ぐりに現在も生きています。神聖なチガヤの葉で巻いたもちを、神様に供えるということだったのでしよう。最初はチガヤのちまきであったのが、地方へ伝わるとともに、また時代を経るとともにさまざまに、また時代を経るとともにさまざまに葉が使用されたと考えられます。

「かしわ」とは炊事に使われた葉

葉で部分的に包んだものは古くからあったと思いますが、端午の節句にカシワの葉で包むかしわもちが現れたのは、17世紀の江戸の武家社会といわれています。江戸では盛んだったカシワのかしわもちも参勤交代があったにもかかわらず、江戸時代から昭和の初めごろまで地方には広がっていません。カシワのかしわもちが全国に広がったのはここ30

40年で、それまでは地方ごとにサルトリイバラなどのさまざまな葉でかしわもちを包んでいました。なお、かしわもちの「かしわ」とは、炊く葉のことで料理用に使われていたさまざまな植物にカシワの名がつけられ、サルトリイバラも地方によっては「かしわ」と呼ばれています。端午の節句に供え物のもちをつくる場合、わざわざ遠くから葉を取ってくるのではなく、身近な里やまに生育している植物を使ったはずで、またそれが地域の食文化のひとつとなったと思います。残念ながら現在は、ササのちまきとカシワのかしわもちにおされて、そのほかは絶滅寸前です。ぜひ一度、地元のちまきとかしわもちを調べてみてください。里やま文化を守るためにも。

写真(ホオノキとスキの葉): 伊藤信男

大正末期～昭和初期のかしわもちとちまきに利用した植物

かしわもち型



ちまき型



かしわもち (地点)

サルトリイバラ	127
カシワ	57
ホオノキ	7
ミョウガ	7
ナラガシワ	5
コナラ	4
ニッケイ	3
カシ類	3
クヌギ	2
ヤブツバキ	2
アカメガシワ	1
アベマキ	1
カキノキ	1
クズ	1
マテバシイ	1
ミズナラ	1
ムベ	1

ちまき (地点)

ササ類	108
ヨシ	28
ススキ	22
タケ類	14
マコモ	8
ゲットウ	7
トチノキ	4
ナラガシワ	4
ヤダケ	3
ホオノキ	3
クヌギ	2
ビロウ	2
ダンチク	2
カシワ	2
ミョウガ	1
バショウ	1
チガヤ	1
アベマキ	1
クリ	1
アカメガシワ	1
アオノクマタケラン	1

文献・聞き取り調査から、46都府県、かしわもち224地点、ちまき200地点で情報が得られた。北海道は本州からの移住者がそれぞれ持ち込んだと考えられるため調査地を含めなかった。チガヤのちまきが確認されたのは、愛媛県宇和島市の1例のみ。チガヤは葉が細いので、もちを包みやすい葉の広いススキ、ヨシ、ササ（チマキザサ、クマザサなど）が使用されるようになったと考えられる。



サルトリイバラ



日本での分布 北海道～沖縄

サルトリイバラ科（ユリ科）。葉がつるつるで、香りがよい。ルリタテハの幼虫の食草。



カシワ



日本での分布 北海道～九州

フナ科。葉の香りがよい。枯れ葉が新葉が出るまで枝についているため家系継続の象徴とされる。



ホオノキ



日本での分布 北海道～九州

モクレン科。葉の香りがよい。長さが30cmほどにもなる日本最大級の葉が付く。



ダンチク



日本での分布 関東南部以西～沖縄

イネ科。ヨシに似るがより大きい。茎はクラリネットのリードに利用。



ゲットウ



日本での分布 九州南部～沖縄

ショウガ科。葉がつるつるで大きく、香りがよい。



ススキ



日本での分布 北海道～沖縄

イネ科。葉の縁がギザギザしているため、手を切らないように要注意。

日本自然保護協会会員募集中！

お問い合わせはTEL：03-3553-4101 Eメール：nature@nacsj.or.jp
このページは、筆者の方に教育用のコピー配布をご了解いただいております（商用利用不可）。<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/kansatsu/>からPDFファイルがダウンロードできます。自然観察会などでご利用ください。



本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。